

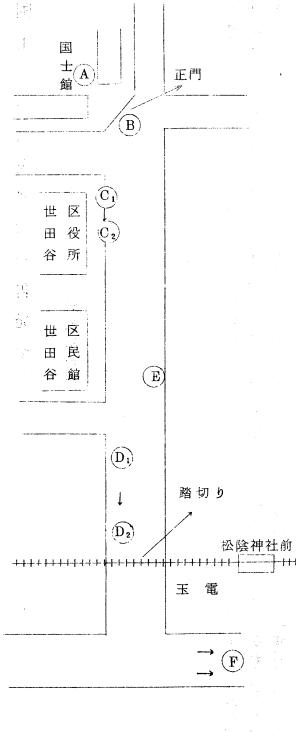
國士館の右翼暴力を告発する

一世田谷区役所前。白昼一時間無法地帶化――

國士館民主化共闘會議

父兄や新入生に手渡した。
私は四四十人。渡し始めた七、八分経過後、神田駅学生監(学生監とはクラス担任のような役職で、殆ど旧職業軍人で構成されている。約百人)が出て来て、止める。とどなった。『言論の自由、私たちの行為は正当である。』といふ意味のことを答えた。彼は、よし、とひって校内に引きかえし、校門内にたむろしていた学生に、やれ、と指示した。——これが先は現場地図を参照して頂きたい……

A 地点に待機していく空手部員・少林寺拳法部員等、約五十人が、B地点で二、三手渡しをやっていたら私たちは、さっそくC地点まで退いてかたまた。私はその最後尾(暴力部隊)に對しては最先頭(暴力部隊)と向き合った。彼の顔は今でも明るい。殺してやる! とわめいた。彼の顔は今でも明るい。



- 2 -

とくに、それが長い間の経験で心得を得たからです。直接柴田先生に日本でやどかされた経験の持主も居れば、暴力学生に痛めつけられた経験の持ち主も居る。直接被害を受けなくても、日常的にそれによることを話に聞いていた人たちはかなりだ。

内部の学生の九割以上も、ただひそりと身を守るために耐えながら、一年後の卒業時にどうかを心配する。監視も新聞もこの学園には手がつかない。かつて昭和四十二年二月、早稲田大学の学園ストに対し、この大学から精锐暴力部隊二百人が、四台のバスで早稲田大学に送り込まれたとき、世田谷署のバトカーは恐怖の恐るバスクのうしならざる行動。ただだけだ。このことは、恐るバスクのうしならざる政府機関でも認めざるを得なかつたことが議事録に残っている。

また同年三月、朝日新聞が國士館の暴状を社会面の記事にしたとき、柴田学長の一喝に会って、当時の美士路社長は、わざわざ自身、学長自宅までやまわりに行っている。(ヘットモないことだ)学校制は得などその状況を学内新聞の記事にし、外部の右翼系新聞も大ききそれを取り上げた。

かつて、諸大學生。しきぎ。がマスコミの話題になったことがある。その当時も、國士館の。しきぎ。

かつて、兼元文教委員会で、この学園の学内状況に耐えかねて自殺した女子学生についての調査要求が、文部省が受け取った。そのときの文部省の調査報告は、「芥川の読み過ぎでしょ」という冷感的なものだった。もっともその直前、飼丸元文部大臣がこの学園の理事であったし、当時、石井元法務大臣がこの学園の維持会長であった。

文部省サイドかららは優良模範大学であるこの学園の教育の本質は、「現行憲法は憲法ではなく、大法だ。渋きを捨てろ!」、「新元新政」、「軍備強化」等々で、あり、この学園で私兵の暴力部隊が着実に養成されてゐるということと、最近数年間の政府・文部省の政策・方針とは無縁ではなからう。むしろ密接な関係があるのであらう。

一面でもかしいようなことのなしだが、私に刀を突きつけ、殺してやる。わが子の学生に対して、私的、直接的な暴力がどうしても引き上げて来ない。戦時中の日本やドゥイツの状況と同じで、数年間の教育でそうなるてしまう。彼等さえも被害者なのだ。私は、教育公害

療に識別できるつもりだ。私のすぐ後には仲間の人たちがまたまっており、私は身動きとれなかつた。その間に私は、まわりから蹴り、足蹴りが十数回顔面と膝部を襲った。奇声を発しながら空中に上りがり、膝部を足が、静止した目標に向って、ギリイにずし、としりを飛ばされた。この震はもう既に感覚麻痺状態になっていた。

C地点でようやく襲撃が小止みになった。彼等との間が少しあいだ。見るとまだこちらの三人が暴力力学私たちはまたまのままざるざるとC地点からC地点まで後退した。その間、今度は後頭部に數十回、膝蹴りで見舞された。この震はもう既に感覚麻痺状態になっていた。

C地点でようやく襲撃が小止みになった。彼等との間が少しあいだ。見るとまだこちらの三人が暴力力学の渦の中で何人かに白刃をつきつけられながらやられていく。私たちとは必死になつてそれを差し逸げていた。

私がからく引き上げよう。大丈夫か、など確かめ合いながらC地点あたりまで引き上げた。そのとき、背景から異様な呼び声が聞こえて来たので、振り返るとC₂地点あたりから、さきの五人十程の暴力学学生が、走り出した。ところがC地点あたりから、別の三十人ばかりの学生服でない部隊（国防部のユニフォームで

ある亂闘服を着用)が選ばれかって来た。玉電踏切りのあたって数人がつまづき倒され、なぐる蹴る暴行を受けた。丁度そりのあたりで、何も知らぬ母親同伴の新入生教員が巻き添えの暴行を受けた。通行人の何人かも暴行を受けた。

あとはもう散り散りに、大半矢印の方向に逃げた。ところがそのとき、またしても數十人の別部隊が前方から襲って来た。事後確認によると、彼等は松陰神社境内に待機していた教育部員の学生(レスリング部のユニフォームを見られた)のようだ。彼らは店舗ばかりでなく附近の家に逃げ込んだ。彼等は民家も店舗も結構いなしに乱入りし、暴行を継続した。殆ど全員を完膚なきまでにたたきのめしと見極めた後、意気揚揚と彼等は引き上げた。その頃ようやく、彼等の背中に向けてバトカーラのサインが響いた。彼等は別にあわててでもなく、ゆっくりキャンバス内に引き上げて行った。警察も彼等を追って行く気配はなかつた。

声 明

國士館民主化闘争共斗会議

4月15日の入学式闘争は、共闘会議 桑田氏のアピールにみられる如く、國士館当局とその配下の暴力部隊によって血ぬられた闘争となつた。

昨年5月、われわれは共闘会議を結成して以来、國士館民主化→解体の闘いを執拗に展開してきた。われわれの先制的かつ連続的な闘争は右翼國士館当局を着々と追いつめた。このことは今年4月の始業式において横山館長代理の異例な発言（國士館に対する闘いが学園内外にあることを認め、学内の闘いの圧殺を叫びかけた）にも明確にみられた。まさにこのような彼らの危機感が入学式闘争に対するなりふりかまわない襲撃となつてあらわれたのである。われわれは共闘会議の闘いの成果をはつきりと確認するとともに、彼らの暴力的恫喝に屈することなく、更に一層の追撃戦を展開してゆく決意である。

労働者・学生・市民諸君！ 国士館共闘会議に結集し、國士館暴力解体の闘争を共に闘い抜こう。

こそ諸公害の根源であると思ふ。こゝつと闘わなか
ぎり明るい明日はひらけない。

國士館は政府・文部省の右翼反動教育の観測気球であ
り、またその牽引車であると私たちは見てゐる。國
士館における闘いは、ストレートに、教育公害の根源
・文部省に対する闘いに必然的につながつて行く。

私たち四十名が全員被害届を出し、國士館を告訴す
ることは出来る。そうすれば審査課は、加害者に対する
調査は潮上げにして、徹底的に私たちの側を調査研
究し、運動の組織を洗い上げて行こうとするだろう。

このことは既に数百回にわたる、朝鮮高校生に対する
全く一方的な襲撃暴行の事件の中で、私たちには痛い程
経験して來ている。
どうぞこれ程の暴力行為に対して、被害届も告訴
もなされないと、うることでは、長年にわたり立派入
りを続けて来た周辺住民の人たちや内部の一般学生を、
更に一層の無力感の泥沼の中につき落とすことになろ
う。
さまざまの危険を考慮しながら、この際、私とH
君は、断乎、被害届を出し、國士館を告訴して行くこ
とを決意している。
かつて頭痛とくことを経験したことのない私た
だが、事件当日から五日目の今日、原稿を書きながら、

後頭部に脈打つような純痛を感じしている。何事も經
験してみないと分らない。私もようやく頭痛について
の経験を持つことが出来た。

一九七二年四月二〇日